

KGK JET

Marking Solution — 信頼の印字を世界に。



HUMAN × TECHNOLOGY

優れたテクノロジーは、人を想うやさしさから生まれる。
私たち紀州技研は、そう考えています。

日本初の自動捺印機を作った1968年以来、
印字の世界で、常にチャレンジを続けてきた紀州技研。
今ではインクジェットプリンターを形成するヘッド・インク・システム、
すべてを自社で開発・製造する日本唯一の企業であると同時に、
印刷技術で世界をより快適にする、未来型技術企業へと進化しています。

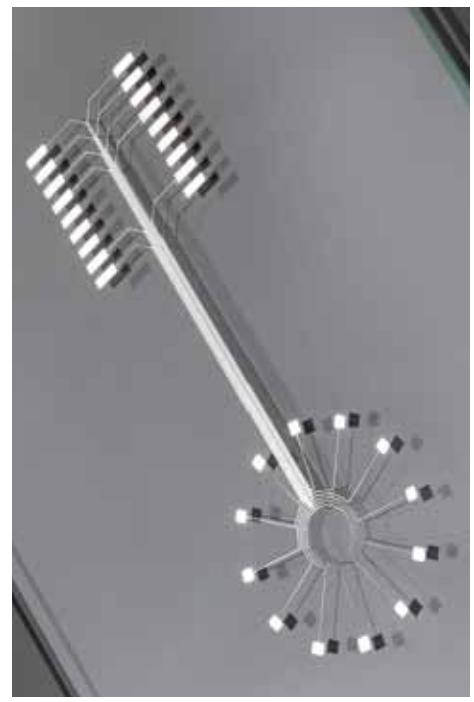
そんな私たちが技術開発と同じくらい大事にしているのが、
「この仕事の先に、誰かの笑顔が見えるか」ということ。
小さなことも愛ある視点で考え方を変える、ユニークで新しい発想が生まれます。
そして紀州技研もまた、社員ひとり一人を大切に想っています。

人を大切にする企業風土でなければ、生み出せないものがある。
多様な価値観が交差するグローバル社会だからこそ、
紀州技研は、ヒューマン・テクノロジーで勝負。
新しい時代も柔軟に、大胆に、力強く成長していきます。



みんなの力で、社会を導く技術を生み出したい。

紀州技研は、産業用インクジェットプリンターを通じ、さまざまな印刷技術を培ってきました。今、これまでの技術を結集し、大学や国の研究機関と連携して歩みを進めているのが、プリントヘッドエレクトロニクス（Printed Electronics）。電子デバイスの製造プロセスに印刷技術を応用することでより安価で軽量な製品を生み出します。生産性と環境負荷の調和がとれるこの技術におけるキー技術プロジェクトとして、非接触で様々な材料を印刷できるインクジェットが注目されています。現在、プリントヘッドエレクトロニクスの主な要素技術である、インクジェットヘッド・金属ナノ粒子インク・専用プリンター機構のすべてを自社開発した「金属ナノ粒子インク専用インクジェットプリンター」を発売。製品開発の応用が見込まれる分野は、フレキシブル配線技術、太陽電池製品、次世代ディスプレイ、デジタルサイネージ、ヘルスケア製品など多岐に渡ります。新しい時代の主役となる技術が、ここにあります。



国内で数台しか存在しない研究装置を元に、独自研究を重ねた末に完成した新設計の金属ナノ粒子製造装置。金属をナノメートルサイズまで小さくして溶媒中に分散させることができます。この大きさまで金属を小さくすることで、従来では溶けないような低温で溶融したり、特有の発色を示したりといった新たな特徴が出現します。新しい物性の発現は従来の製造プロセスを劇的に変える可能性を秘めています。

*ナノメートルは1mmの100万分の1

銀ナノ粒子インクとインクジェット装置を用いて描かれた微細パターン。



ナノテクノロジーを応用した先端研究を行い、様々な成果は学会等に精力的に発表しています。自分たちの仕事を夢や魅力を感じてもらうことが継続的な研究につながり、大きな進歩になりますから。一生懸命仕事をしていると、機械や化学反応と、ふと、心が通つたような気持ちになることがありますよ。今の恵まれた環境でこの研究を新規事業へと繋げたいと思っています。

金属ナノ粒子インクを使って電気回路の配線をインクジェット描画するためのソフトを開発しています。アイデアに行き詰ったときは、問題を1つに絞るか、あえて、全く別のことになり組むようにしています。ソフトを意図通り動かすためには、コンピュータへきちんと命令を出さないといけないところに、開発の難しさ・面白さがあるような気がします。ソフトだけに留まらず、電子回路や機械の設計などに対応できることを増やしていきたいです。





自分たちの技術が
活躍している現場を見ると、
感動します。

研究開発型企業の紀州技研。バーコードやQRコードを瞬時に印刷する高品位インクジェットプリンターや高速乾印字の連続式インクジェットプリンターなど、ニーズに応じたインクジェットプリンターを次々と開発しています。装置の性能や操作性を司る電子基板の設計、求める高機能を満たすための部品選定から厳しい動作評価テストなど、メカトロニクス課・ソフトウェア課・ハードウェア課の各課が技術を持ちより開発。さらに営業部と情報を共有し、顧客と開発者がしっかりと繋がり、現場のニーズに則った改良や、時代を先取る開発を、部門を越えて協働で行えるのも強みです。



開発部 ハードウェア課

電子基板の設計を行っています。開発費が真大になるので、基板が意図通りに動作した時は、ほっとします。ここで大事にしているのは、やりたいことに集中できる環境づくり。考え抜いた上でひらめきが大切な。世に出た製品が活躍し、喜びの声を聞く時が幸せです。

開発部 ソフトウェア課

ソフトの開発・保守や取扱説明書の執筆、技術サポートが業務です。お客様の求める機能や操作性と、装置側の制限との間でベストを目指すため、プログラミングがうまくいかない時も。そんな時に相談すると思いがけない解決策がいい刺激になりますね。

開発部 メカトロニクス課

インクジェットプリンターの開発・機械設計をしています。色々な装置やものを観察すれば知的好奇心が刺激され、アイデアの源になります。小さな頃から自分が想像した飛行機や船の絵を書いてたり、組み立てたりもしていましたね。目標は、特許をとることです。



2018年6月、インクを開発するために必要な最新の設備を整えたインク研究所が竣工。長年培ってきたインクの知識をもつ研究員が「よりお客様のニーズにあつたインクを」、「より当社のプリンターを長く使っていただけるインクを」、「よりキレイな印字を」と、日々奮闘しています。プリンター開発部門・インク開発部門・設計部門・ソフトウェア部門、それぞれのプロフェッショナルがインク研究所で知恵を出し合い、問題解決に努めています。



「便利になつた」の声が、 次の開発の エンジンになりますね。

産業用インクジェットプリンターで国内トップシェアを誇る紀州技研。その訳は、段ボール・発泡スチロール・食品など、印字する対象物に応じた、機能性インクの開発にあります。インクジェットという非接触型の印字方法+独自の機能性インクが、あらゆるものにプリントの可能性を拡げました。可食性インクでの卵や果物への印字は、食品のトレーサビリティ(生産・流通履歴)を明確にするという社会のスタンダードを確立。食の安全に貢献しています。各種可食インクをはじめ、錠剤用インク、UV硬化インク、セキュリティインク、発泡スチロールインク、金属ナノ粒子インクなど、多種多様な市場のニーズに応え、開発は今日も続きます。



錠剤に印字



マンゴーに印字



イエローレーム

紫外線で一瞬にして硬化・定着するUV硬化インク。定着性・耐摩耗性など、さらなる進化のために新設したのがイエローレーム。透明から壁の材質まで、紫外線を徹底的にカット。研究に最適な環境で、独自の開発を行っています。

インク開発部

Voice

開発は、とにかくスピード勝負。開発部は皆がそれぞれに課題を持ち、チームに沿ったインクの材料を見つけ、試作し、評価します。より良いものをより速く世に出すため、歩くスピードまで速くなったりね(笑)。他者との競争も激しいですが、ふと手にしたペットボトルやお菓子のパッケージなど、至るところで製品を目にすることができ、世の中の役に立っているんだなあ、と実感できます。

誰もが使える高性能のために、 誰よりも真剣に。

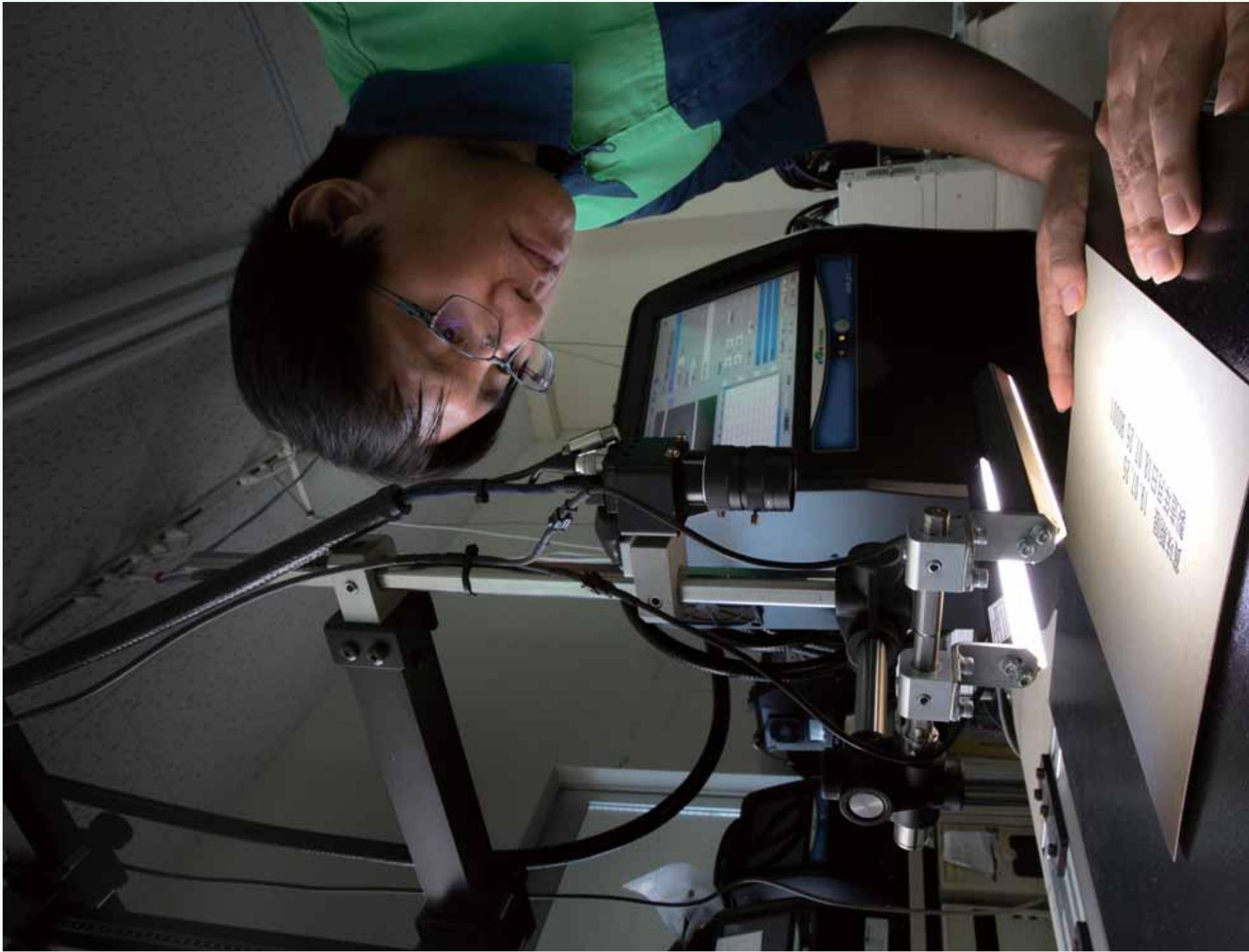
求めるものは、インクジェットプリンターを知りつくした専門メーカーだからこそ文字検査装置。工場のライン上で高速で流れる印字物の品質を管理する印字検査装置は、高精度なほど操作設定が難しくなる、と言う課題がありました。そこで紀州技研はプリンターとの動作連携を深め、ON/OFF、検査品種の切替、検査文字列の変更など、よく使う重要機能を運動。さらに、より見やすくスマートな操作のため、設定の手間や入力ミスを省き、誰もが使いやすい高性能を目指しました。大型の対象物の検査はもちろん、大容量ハードディスクに保存した検査画像と別途生成する履歴ファイルとの併用もでき、徹底した品質管理に貢献します。



画像認識システム開発部

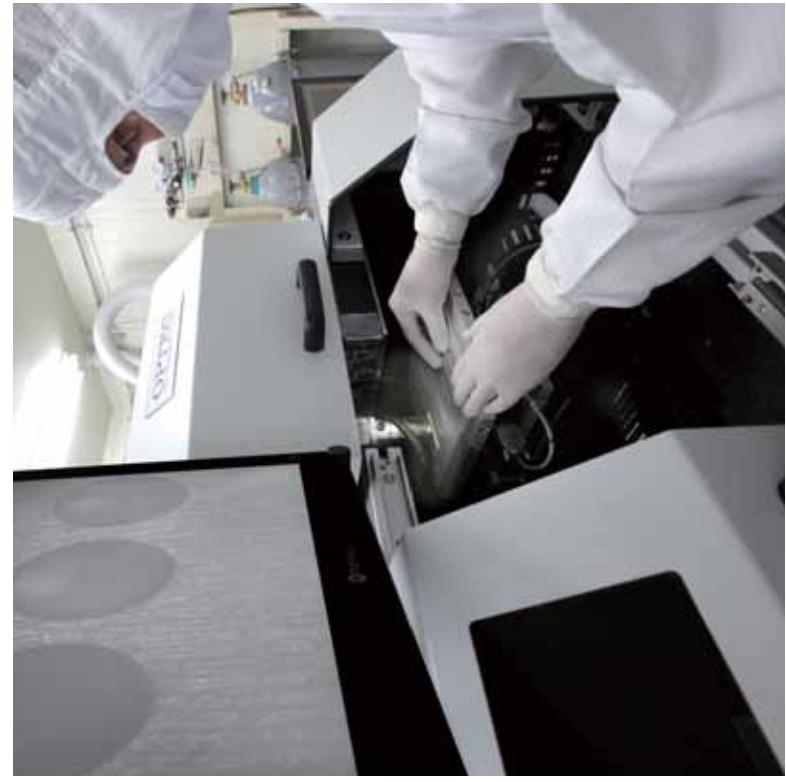


検査装置のソフトウェア開発が仕事です。何事も手堅く慎重に物事を進めようとする性格で、自分を漢字で表すなら「堅」。過去には工具の原因を特定するまでに半年もかかったことがあります。この時は夢の中でまで調査していました。おかげさまで今は「使いやすい」の声や、リピートで購入いただけることも多く、日々充実しています。

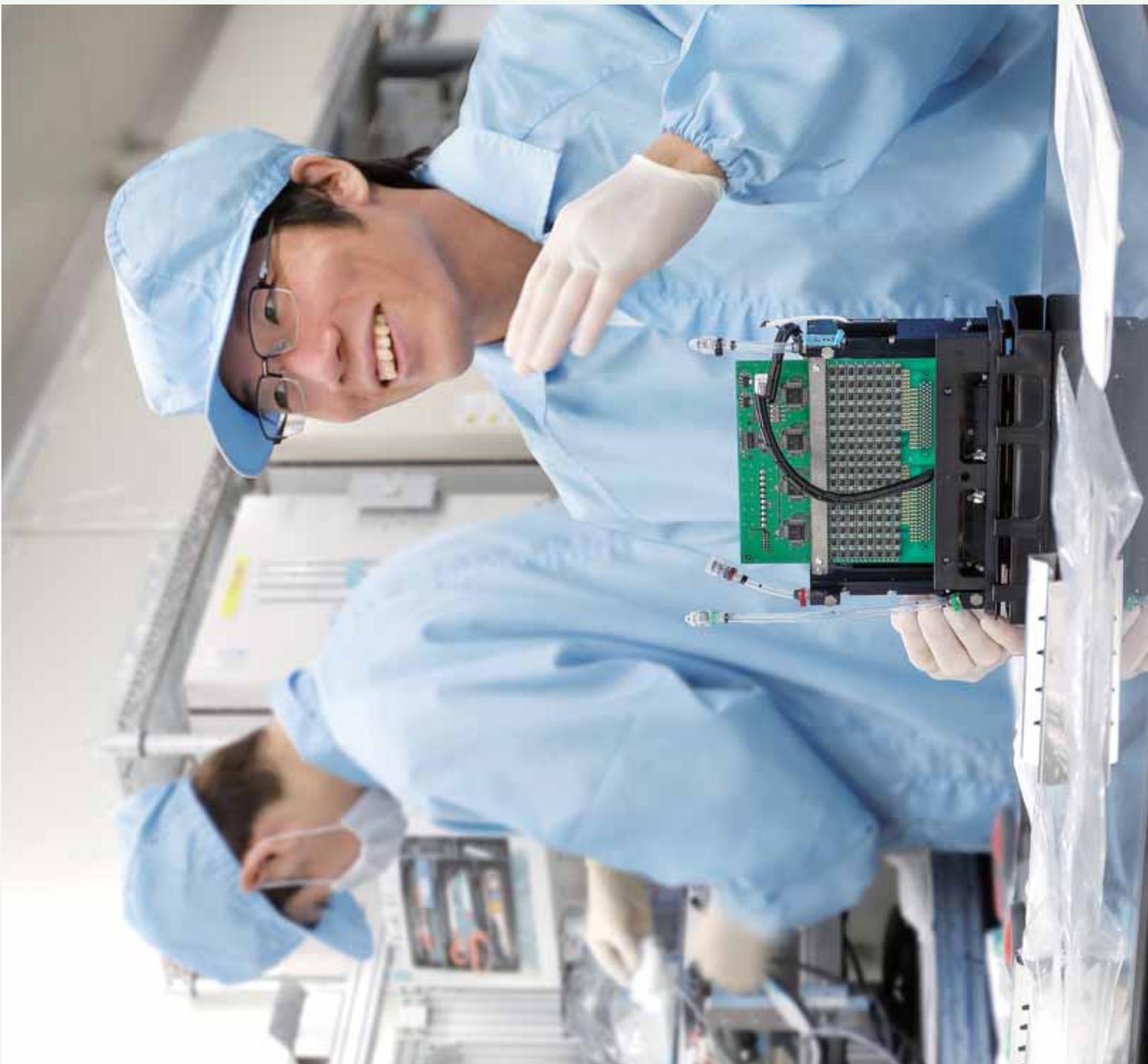


初号機は、1986年。 ともに進化を続けるために、 ひたすら考えています。

インクジェットプリンターの要であるプリントヘッド。インクを距離の離れた印刷対象物に正確に飛ばすため、高精度な微細加工技術を徹底的に極めます。さらに、美しい描画性能と省資源・省エネルギーにつながる液滴化技術を、どのような市場・環境・条件においても提供することができます。プリントヘッド開発の使命です。高品質で正確はもちろん、多岐にわたる印字ニーズに応えるため、インクを確実に制御する、より優れたヘッドの開発が今日も進んでいます。



エキシマレーザー加工機（プリントヘッド開発部）

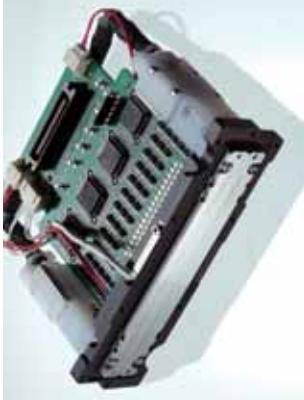


プリントヘッド開発部

Voice
インクジェットプリンターのプリントヘッドの設計・試作品の評価を行っています。評価の中で、説明できない現象が起ることもあります。実験や数値解析により、原因究明し理解することを心がけています。何でもそろですが、新しいものを作るには、先入観を持たないことです。日々の勉強を怠らず、チャレンジを続けたいですね。

自動捺印機から続く、紀州技研 DNA。

1968年、段ボールにゴム印で製造年月日をプリントする日本初の自動捺印機“ローラーコーダー”が誕生。無いものを見つけ、追求する姿勢が生んだこの製品は、今も国内トップシェアを誇ります。インクジェットプリンターで自社開発の技術を世界に展開するようになつた現在も、技術のための技術でなく、人に役立ち社会に新たな価値を創造する、イノベーションを持つた技術を生み出すこと。それが、紀州技研のDNAです。



社内一貫体制|システム

紀州技研では、開発を核とし、営業部門から製造部門まで密接な連携のもと、さまざまな知識やノウハウを全社的に共有。お客様からのご要望を起点として業務が動き出す社内一貫体制システム（ナレッジマネージメントシステム）を構築しています。これにより、お客様のニーズや課題点を最大限に理解することができます。満足度の高いご提案や、最良の解決策を提供させていただくことができます。

社内一貫体制のメリット

●お客様の声を全社的に共有できる
満足、不満、ご要望。お客様の声はすべて紀州技研の宝です。すばやく正確に、製品・サービスに反映します。

●正確なニーズを掴んだ開発を迅速に
各部門それぞれの強みを出し合うので課題解決がスピーディ。幅広いご要望にお応えする事も可能です。

●不具合の発生にすばやく対応
万が一、製品に不具合が発生した場合にも、すぐに対応が可能。詳細に原因を究明し、確実に解決へ導きます。

1.マーケティング

お客様の声から求められるニーズや課題を吸い上げる営業部。満足していただける製品を常に探究しています。



2.開発

開発部から上がってきた図面・アイデアを元に3D CADを使って実施設計を行います。意図通りの動作が問題なく行えるれば、量産体制へ。



4.製造

開発部と製造部が社内で連動。試作段階から量産までスムーズに移行でき、最適なものづくりが可能になります。



5.検査／出荷

すべての完成した製品は、お客様に満足いただける製品であるか、徹底的な品質検査を行つた後、出荷します。



6.アフターサービス

納品後、万が一製品に不具合があった場合も、営業・保守・技術社員が一体となって問題の解決に取り組みます。



知識の共有化

働く人の、力になりたい。世界中のさまざまな現場で、紀州技研がお手伝いしています。

製品ラインアップ

CCSシリーズ 微細な文字を速乾インクで高速印字します



HQシリーズ 大きな文字も鮮明に印字します



ローラーコーダーシリーズ 国内No.1のシェアを誇る捺印機です



文字検査装置 高精度度の鋭い規線でチェック



UV照射機

UK5000UV 硬化インクを瞬間硬化

納入実績

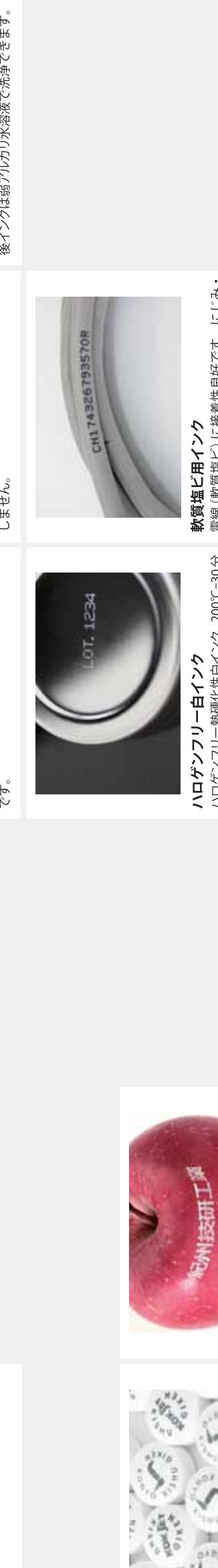
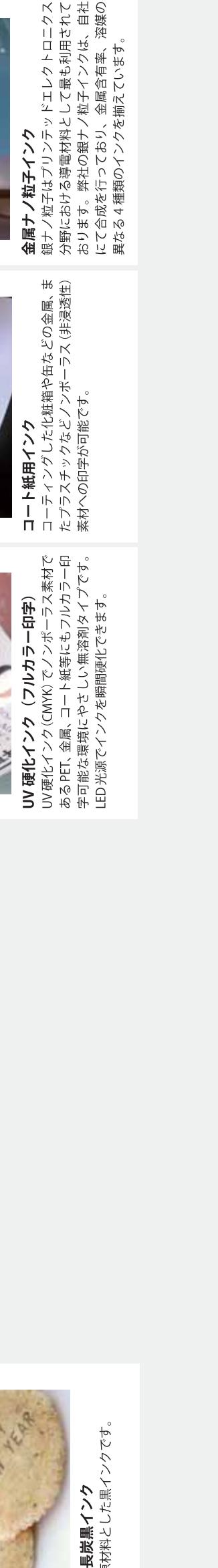
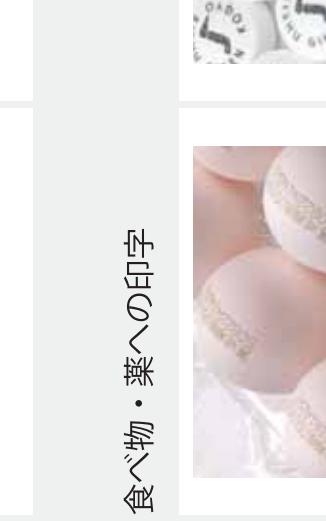
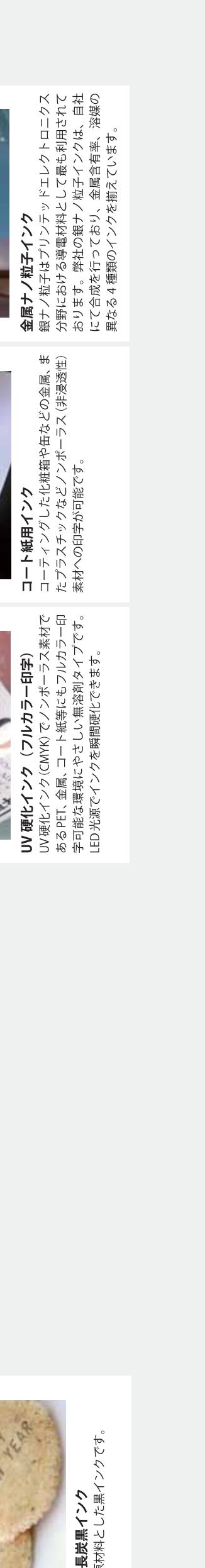
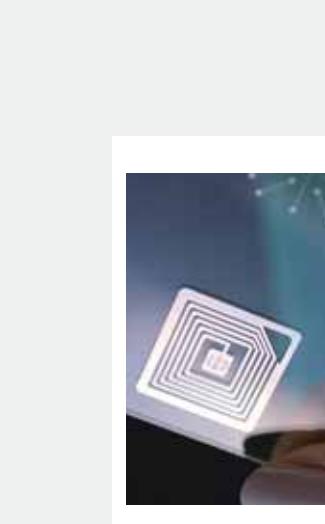
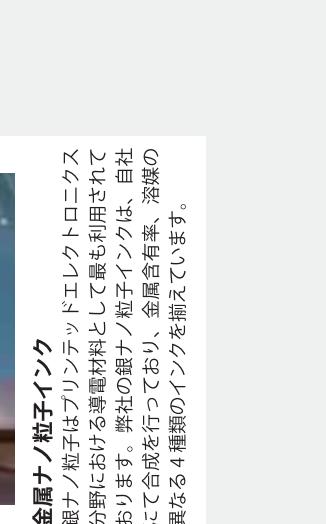


JA 紀北かわかみ
かつらぎ中央総合選果場様

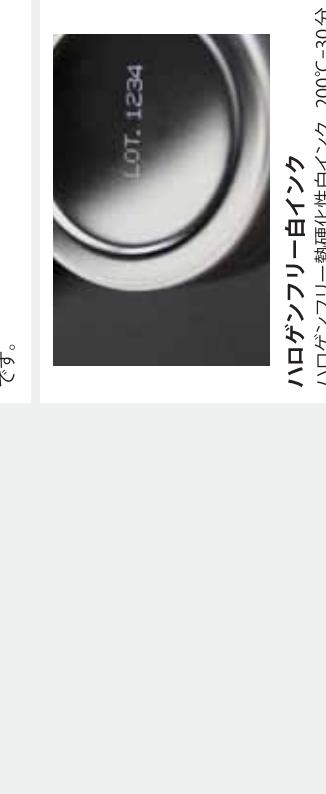
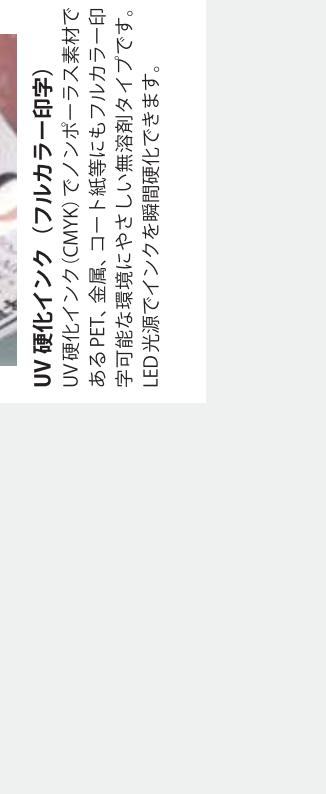
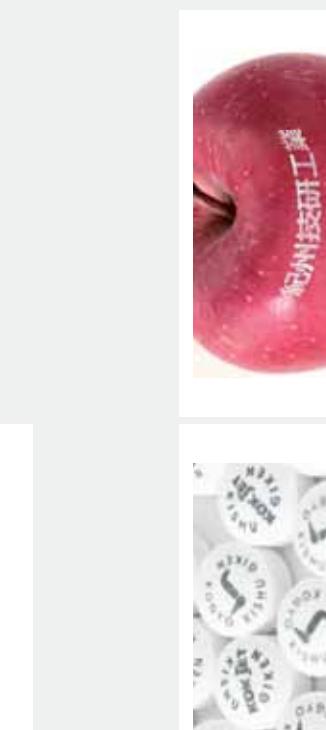
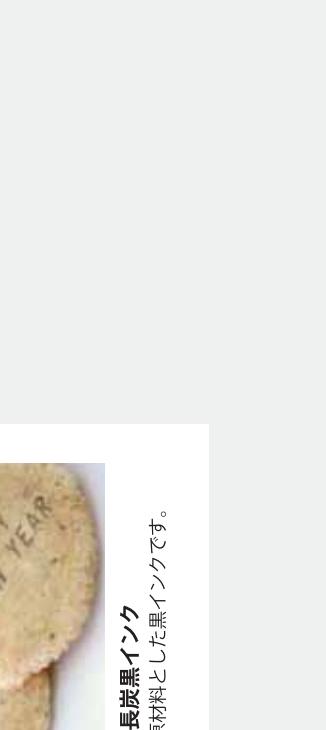
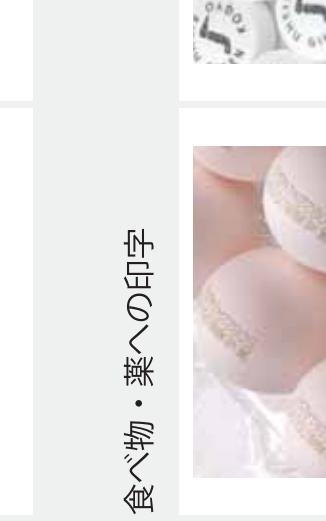
機機能性インク紹介

さまざまな材質に応じたインクを開発。
安心・安全・便利、そして楽しい生活を、インクの世界から拓きます。

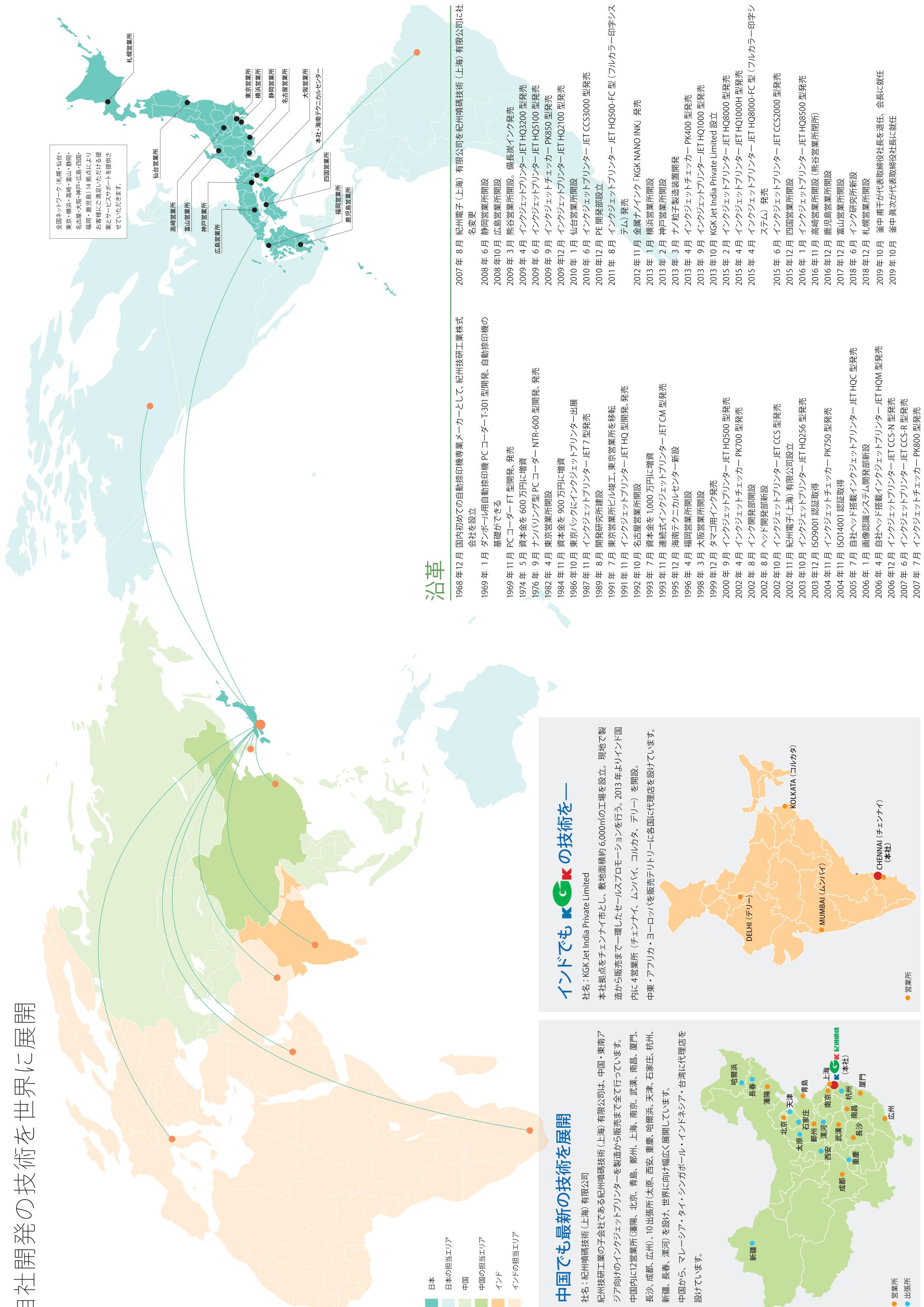
吸水性のある物への印字

 <p>段ボール用標準インク 紙や多孔質素材に染み込むインク。カラーバリエーションも豊富です。</p>	 <p>段ボール用フルカラーインク 多孔質素材にもフルカラー印字できます。</p>	 <p>可食性たまご用緑インク 食べても安心なインク。茹でても消えません。</p>	 <p>UV硬化インク (フルカラー印字) UV硬化インク(CMYK)でノンボーラス素材であるPET、金属、コート紙等にもフルカラー印字可能な環境にやさしい無溶剤タイプです。</p>	 <p>可食性赤インク 安全性が高く、食品への直接印字が可能です。</p>
 <p>木材用インク 木材にもきれいに印字できます。</p>	 <p>発泡スチロール用インク 発泡スチロールに直接印字が可能です。</p>	 <p>可食性白インク 果物や食品用 可食性白インクです。</p>	 <p>コート紙用インク コート紙(CMYK)でノンボーラス素材であるPET、金属、コート紙等にもフルカラー印字可能な環境にやさしい無溶剤タイプです。</p>	 <p>可食性黒インク 偏光炭を原材料とした黒インクです。</p>
 <p>個包装箱用インク 速乾性インクで微細な文字もくっきり印字できます。</p>	 <p>PE用インク ポリエチレンへの接着性を向上させたインクです。</p>	 <p>ハロゲンフリー白インク ハロゲンフリー熱硬化性白インク。200°C-30分の条件で硬化します。</p>	 <p>軟質塩ビ用インク 電線(軟質塩ビ)に接着性良好です。にじみ・裏移りが起こりにくくです。</p>	 <p>金属ナノ粒子インク 銀ナノ粒子はプリントッドエレクトロニクス分野における導電材料として最も利用されています。弊社の銀ナノ粒子インクは、自社にて合成を行っており、金属含有率、溶媒の異なる4種類のインクを揃えています。</p>
 <p>ガラス用スチルスリンク ガラス用印字が見えず、ブラックライトで照射すると印字が青く光ります。</p>	 <p>水性インク (有機則非該当) 水性インク(有機則／消防法共に非該当)。乾燥後インクは弱アルカリ水溶液で洗浄できます。</p>	 <p>アルコールインク (有規則非該当) MEKを使用していないため、嫌な臭いがありません。</p>	 <p>レトルト用インク レトルト殺菌処理(100 ~ 120°C)を行っても剥離しません。</p>	 <p>UV硬化インク (フルカラー印字) UV硬化インク(CMYK)でノンボーラス素材であるPET、金属、コート紙等にもフルカラー印字可能な環境にやさしい無溶剤タイプです。</p>

吸水性のない物への印字

 <p>PP用インク (有規則非該当) ポリプロピレンやPET、PA(ポリアミド)など難接着素材にも強定着します。</p>	 <p>PE用インク ポリエチレンへの接着性を向上させたインクです。</p>	 <p>ハロゲンフリー熱硬化性白インク ハロゲンフリー熱硬化性白インク。200°C-30分の条件で硬化します。</p>	 <p>軟質塩ビ用インク 電線(軟質塩ビ)に接着性良好です。にじみ・裏移りが起こりにくくです。</p>	 <p>コート紙用インク コート紙(CMYK)でノンボーラス素材であるPET、金属、コート紙等にもフルカラー印字可能な環境にやさしい無溶剤タイプです。</p>
 <p>個包装箱用インク 速乾性インクで微細な文字もくっきり印字できます。</p>	 <p>PE用インク ポリエチレンへの接着性を向上させたインクです。</p>	 <p>ハロゲンフリー白インク ハロゲンフリー熱硬化性白インク。200°C-30分の条件で硬化します。</p>	 <p>軟質塩ビ用インク 電線(軟質塩ビ)に接着性良好です。にじみ・裏移りが起こりにくくです。</p>	 <p>コート紙用インク コート紙(CMYK)でノンボーラス素材であるPET、金属、コート紙等にもフルカラー印字可能な環境にやさしい無溶剤タイプです。</p>
 <p>木材用インク 木材にもきれいに印字できます。</p>	 <p>発泡スチロール用インク 発泡スチロールに直接印字が可能です。</p>	 <p>可食性白インク 果物や食品用 可食性白インクです。</p>	 <p>UV硬化インク (フルカラー印字) UV硬化インク(CMYK)でノンボーラス素材であるPET、金属、コート紙等にもフルカラー印字可能な環境にやさしい無溶剤タイプです。</p>	 <p>可食性赤インク 安全性が高く、食品への直接印字が可能です。</p>
 <p>ガラス用スチルスリンク ガラス用印字が見えず、ブラックライトで照射すると印字が青く光ります。</p>	 <p>水性インク (有機則非該当) 水性インク(有機則／消防法共に非該当)。乾燥後インクは弱アルカリ水溶液で洗浄できます。</p>	 <p>アルコールインク (有規則非該当) MEKを使用していないため、嫌な臭いがあります。</p>	 <p>レトルト用インク レトルト殺菌処理(100 ~ 120°C)を行っても剥離しません。</p>	 <p>金属ナノ粒子インク 銀ナノ粒子はプリントッドエレクトロニクス分野における導電材料として最も利用されています。弊社の銀ナノ粒子インクは、自社にて合成を行っており、金属含有率、溶媒の異なる4種類のインクを揃えています。</p>





会社概要



どんな小さなことでもいい。
人がやらない、できないことを見つけよう。
見つけたものは、徹底的に、深く追求しよう。
そうすればいつか、その世界でトップになれるかもしれない。
一番を目指して努力することは、生きる自信にもなる。
何より、トップに立つのは一番、面白いんだから。

私がいつも、若い社員たちに話していることです。

紀州技研は、1960 年代に自動捺印機の特許を取得。また、ピエゾタイプドロップオンデマンド方式 (DOD) インクジェットプリンターも、世界で初めて、当社が開発しました。以来、コンピュータを活用したインクジェットプリンターのヘッド、文字検査機、機能性インクの研究・開発・製造を一貫して行い、信頼される製品づくりを進めてきました。さらには弊社の営業、開発、お客様が心通わせられる、社内一貫体制システムを確立。国内初の印字機専門メーカーとして、常に業界をリードしてきました。

一方、社会もますます急速に変化してきました。価格や安全性に敏感な消費者。環境への配慮。新たな流通チャネルやコミュニケーション手段の変化。グローバリゼーションの加速。私たちが先駆的に拓いてきた印字の世界も、日々、変革が求められています。

今年、創業 50 周年を迎えた紀州技研。今また、世界に先駆けた開発のため国立大学と協同し、新型の太陽光発電/パネルの研究をすすめています。発電効率に優れ、環境負荷の低い製品の実用化を叶えるのは、金属ナノ粒子のインク技術。その研究のためのインク研究所も、平成 30 年 6 月に竣工しました。新しいチャレンジは、何度やつても大変で、しかし本当に楽しいものです。

私たちは、自分たちの製品が全世界で認められている企業体であることを自覚し、これからもお客様、そして大切な社員の満足度の向上を目指します。そして、これからも新たな技術を磨き、より良い社会に貢献することをお約束いたします。

商号 紀州技研工業株式会社 Kishu Giken Kogyo Co.,Ltd.	本社 〒 641-0015 和歌山県和歌山市布引 466 TEL 073-445-6610 FAX 073-448-2005	URL : http://www.kishugiken.co.jp/
札幌営業所 〒 060-0004 北海道札幌市中央区北四条西 13 丁目 1-2 RICH 植物園 BLDG 5 階	TEL : 011-218-8115 FAX : 011-218-8132	
仙台営業所 〒 982-0032 仙台市太白区宮原 4 丁目 4-2 小島ビル 401 TEL 022-307-3006 FAX 022-743-5181	東京営業所 〒 131-0033 東京都墨田区向島 3-41-13 TEL 03-3624-2111 FAX 03-5608-7277	
横浜営業所 〒 222-0033 神奈川県横浜市港北区新横浜 3-20-12 TEL 045-478-0696 FAX 045-473-3140	高崎営業所 〒 370-0018 群馬県高崎市新保町 1665-1 反町ビル TEL 027-553-3335 FAX 027-353-3367	
静岡営業所 〒 422-8041 静岡市駿河区中田 2-1-6 村上石田街道ビル 5F TEL 054-284-3526 FAX 054-284-3559	富山営業所 〒 939-8216 富山県富山市里瀬比町 1-10-9 TEL 076-492-7745	
名古屋営業所 〒 465-0093 愛知県名古屋市名東区一社 3-96 TEL 052-704-0505 FAX 052-709-1220	大阪営業所 〒 564-0052 大阪府吹田市広芝町 10-35-7 TEL 06-6330-6651 FAX 06-6378-1203	
神戸営業所 〒 635-0004 兵庫県神戸市垂水区学が丘 4-24-19 TEL 078-787-7477 FAX 078-733-1050	四国営業所 〒 799-0411 愛媛県四国中央市下柏町 75-1 ロイヤルマンション柏 1 TEL 0896-24-5210 FAX 0896-24-5205	
広島営業所 〒 733-0012 広島市西区中広町 2 丁目 17-2 TEL 082-532-3300 FAX 082-231-6800	福岡営業所 〒 812-0042 福岡市博多区豊 1 丁目 3-14 佐藤ビル TEL 092-482-6303 FAX 092-477-3504	
鹿児島営業所 〒 899-1341 鹿児島県霧島市国分野口東 6-20 サンライズビル 1C TEL 0995-49-6194 FAX 0995-49-6201	海南テクニカルセンター 〒 642-0017 和歌山県海南市南赤坂 1-1 TEL 073-483-3141 FAX 073-484-2084	
創立 1968 (昭和 43) 年 12 月 27 日	資本金 1,000 万円 (株主資本金 64.7 億円)	事業内容 生産ライン上で段ボール、建材、パーツ、食品等に賞味期限、ロット番号、ロゴマーク、バーコード、QR コード等を自動的に印字するインクジェットプリンターとローラコーダー、文字検査装置、コンバーチャル・制御盤の開発・設備、インクおよびソフトウェアの製造・販売
代表取締役社長 釜中 真次	事業内容 生産ライン上で段ボール、建材、パーツ、食品等に賞味期限、ロット番号、ロゴマーク、バーコード、QR コード等を自動的に印字するインクジェットプリンターとローラコーダー、文字検査装置、コンバーチャル・制御盤の開発・設備、インクおよびソフトウェアの製造・販売	
売上高 69.6 億円 (2019 年度)	販売先数 27,000 社 (実績)	董事長／釜中真次
従業員数 223 名 (2019 年度)	取引銀行 紀陽銀行 本店	総経理／釜中真次
商工中金 和歌山支店	三妻 UFJ 銀行 和歌山支店	資本金／50 万米ドル
決算期 11 月 30 日	URL : http://www.jizhou.com.cn/	売上高／46.3 億円 (2019 年度)
子会社 紀州噴碼技術（上海）有限公司	Tel 0086-21-57742020 Fax 0086-21-57743461	従業員数／248 名 (2019 年度)
本社／中国上海市松江工业区宝勝路 3 号		営業所・出張所／22ヶ所
		KCK Jet India Private Limited
		CEO／釜中真次
		資本金／2 億円
		売上高／4.5 億円 (2019 年度)
		従業員数／133 名 (2019 年度)
		営業所／4ヶ所

代表取締役社長 釜中 真次



紀州技研工業株式会社

〒641-0015 和歌山県和歌山市布引466 番地

TEL 073-445-6610 FAX 073-448-2005

URL : <http://www.kishugiken.co.jp/>



KGK および **KGK JET** は、紀州技研工業株式会社の登録商標です。